適職

西村良三

藤枝東の出身者としては異色だろうけど、僕は商売人になってしまった。家の商売も関係あるけど僕の性格が向いていたからだと考える。僕は卒業する時単純に考えた。サラリーマンになるなら大学へ行くべきだ。商売人になるのなら四年間も在学は大変な廻り道だと、今でもそれに近い考え方で別に後悔はしていない。確かに会社の内部でも実力万能主義で成績だけが物を言う。新入社員の採用も大学卒の方が多くなって、僕なんかが七、八年たってからもらった様なサラリーを初任給でもらったりしているので複雑な心持ちになったりする。が、事、営業になればそんな事はすぐ忘れてしまっている。型は、サラリーマンだが、私の生きている社会は、生き馬の目を抜く厳しい商売の世界だからだ。名古屋の古い格式の繊維会社で、二百年余りの歴史をもっている事が、プライドでもある。社員五〇〇名、資本金二億、年商百五十億まあ中企業と言えようか。上司も多いけど、この頃では部下も沢山になった。鈍でも凡でも、十二年まじめに過したお陰で、だんだんエスカレーター式になってきた。小さな会社の良い点で、停年になっても課長にもなれないと言うような事はない。まあ重役になれなくとも、部長位にはして呉れる仕組である。小生もある担当係の補助職として、一応会社の中堅と呼ばれる年令になった。

結婚して一女があり、典型的な社会人になって仕舞ったけれど、商売人的サラリーマンになったお陰で学歴もないのに、仕事は、可成り充実した責任あるものが殆んどである。自主的判断に基く仕事の為に、自分の指図が会社に対してのメリットを握っているとも言え、メンタルな負担も多い。反面男らしいスリルも味え結構満足している今日この頃である。母校に私の様な商売人を目指した人が少いと思われるので異色として寄稿の栄に浴した訳だが、現在の母校の様子を遠くから眺めるのに、進学こそ人生の総てと考えて居られる後輩の多いのに驚く、為に失敗したからと言って悲歎の底に沈み希望を失なった生活態度の人もあると聞く。成程進学も一つの方法であろう。然し万人が進学して良いと言うものでもない。人それぞれ適職と言う事もある。社会と言うものが種々雑多な連繋の上に成立っている事は言うまでもないし八百屋も魚屋もなくてはならぬ社会の一角である。豊かな教養と人間性は容易に得られるものではないが、社会人として、立派に通用する為には進学が唯一の方法であると信じるのは過信ではないかと言いたかった次第である。故郷では進学率も最高で、真面目な校風と良き先生方に恵まれて、エリートが目指す高校になっている現在僕の様な意見は逆効果かも知れないが、一人でも二人でも御共鳴戴ければ幸いである。同窓は画一的な人々の集いより、バラエティに富んだ人々の集りの方が、又愉快でもあるまいか。

（第27回　大阪・滝兵K・K）

中国地方の興味

田中文雄

岡山の四季は藤枝のそれに似ていたって穏やかです。今日も市内の後楽園、郊外の鷲羽山には多くの旅人が訪れて、名園を、内海の絶景を満喫していることと思います。東高を卒業して岐阜に四年、広島に五年、岡山に三年と渡鳥の生活なれど、その土地々々に根を生やし、つつがなき日々を送っております。

遠くに生活して興味深く思われるものがその地方の風俗、方言等と思います、中国地方は正月が近ずきますと賃モチ屋と申しましょうか道路の片隅に臼を据えて大勢で威勢良く餅つきをしているのをしばしば見掛けます。広島でも岡山でも同じですが正月の三日間程全商店が休業致し静かな正月を過ごしております、藤枝や静岡の新年大売り出しなど何処に行っても見られません、年末に食料を買い込んでおかないと正月中何にも売っておりませんので大いに困った事がありました。賑やかな正月が良いか静かな正月が良いか好き好きと思いますが興味深いものと思います。

渡鳥生活を続けていますので色々の方言が一緒になって変なアクセントや言葉になってしまいました。まずは岡山弁を一言。

ヤッチモナイ（つまらない）、ボッコオエン（それはいけない）、ゴチャバー云う（無理なこと云う）、ハヨウヤリンサイ（早くやりなさい）等、面白いものです、私の子供が片言の方言を使ったりする時、ふと時の流れを感じるこの頃です。

母校のサッカーが全国優勝した時、家庭でささやかな祝いをしました、毎年の大会を楽しみにしているしだいです、サッカーにかぎらず各部門での母校の活躍を期待し、東高卒の誇りを今も持って同窓の皆様に負けずに頑張りたいと思っております。

（第27回　東海パルプK・K）

「ホテルにての一コマ」

松村聡

一九五九年七月世界一周旅行を実現しようと単身出発、北米カリブ海、南米アフリカ、欧洲、亜細亜を回り約十ケ月間の旅を楽しんだ。

一人身の気楽さと、普通旅行でない旅として庶民階層に触れて見たい気持とで、羽田出発時航空会社が斡旋してくれた一流ホテルを現地で一切キャンセル―三流ホテルを選び、転々と宿り歩いた当時の失敗談の一つを御披露し、外地に行かれる人々の参考の一端にもと敢えて一文する。一般に欧洲のホテルでは、バス・トイレ付きの部屋は極めて高く、特にフランスではどんな安宿でも各室に「ビデ」だけは完備しており、さすがに世界最低の人口増加率を誇るフランスだけの事はあると感じた。

ロンドンの旅程を終えて、BOAC機で昼過ぎパリの空港に無事到着、直ちにホテルでバイヤーと翌朝九時に逢う約束の電話連絡をすませた。ところが朝になると御多分にもれず習慣的便意を感じ十六階の自室からボーイを呼んで英語仏語は勿論、自分の身につけた限りの用語でトイレの所在を教えてくれる様話しかけたが一向に通じない、どうしても判らない、一方生理現象の方は遠慮なく要求して来る、大体欧洲諸国では英国を除き、普通英語より仏語の方が通用する機会が多く、今迄の旅先ではレストラン、ホテル、街路等でジェスチャーで事を済ませて来たが、如何にしてもあの姿勢はジェスチャーとしてあまり恰好の良いものではない、旅の恥はかきすてだと押し通して来たが、これだけは出来なかった。

仕方なしに一五、一六、一七階と跳び歩きに各フロアーを捜し回ったが見付からない「えい!!」まよ「ビデ」を利用してしまえ！ところが南無さん後がいけない、いくら水を流しても始末がつかない、全く之には弱った、大いに閉口してあれこれ方策を講じて見たが駄目、約束の時間は刻々と迫るやりっぱなしで一たん施錠して部屋を出たが「俺も日本人だ」外人に日本は野蛮国と思われたくないこんな見っともない事で立去る事が出来るか！

ムラ〳〵と日本人としての民族意識が湧き上って来た。一度出た部屋に再び引き返して処理工作に掛かり、ハンガーと手でほぐし浴かそうとしたがこれも失敗、悪戦苦闘の末最後に昨日飛行機上で貰い入れた五ケ入れのタバコの外箱を利用して処理し、油紙で二重三重に包み、紐でしっかりと結んで塵入に投じタクシーにより約束の時間より十二、三分遅れたのみでバイヤーと逢う事が出来、漸く面目を保った次第である。後にフロントで聞いた所、十八階建のこのホテルにトイレは一階の一ケ所のみとの事、海外に出掛けたら日本のホテルの様に各フロァーにあると考えると大きな間違いだ、宿る前によく聞いて置く事が特に肝要であるとつくづく感じた。

単身海外を旅行して俺は日本人だと云うプライドは何時も前面に打ち出て来るもので、海外各地で逢った日本人は勿論の事、アジアの人達とは同じ黄色人種という事のみで近親感が湧いて親しく話が出来、一層の結び付きを深める事を強く感じたものです。

（第27回　松村友吉商店K・K）

所感

村松章二

私共は所謂る戦中派として、今流行の言葉でいえば「大正っ子」ともいうべき卒業年次にあたる年代である。卒業して既に二十数年の歳月がたち、最近の母校の発展は知るよしもない。特に戦後の教育制度の変革が、尚更に学校時代の思い出とのつながりを稀薄にするような思いが致します。人生も初老に入り、自分の子供が、高校に進学してみて、子供達から聞く学生生活の様子が、自分達の青春の思い出としての中学生時代とあまりにもちがいすぎるため、その感が一層に深く、母校に関する限り、青春はすでに遠くなったと、歎かざるを得ない。「精力集中」「至誠一貫」といった格言を常に頭上にかかげて、校歌にもある通り、新興の意気に燃え、千南原に若き血を燃やした、良き時代の、良き思い出が今こうして筆をとっていると次ぎから次ぎにと念頭に浮び、あの友、この友の姿がぽうふつとして瞼に浮ぶ。

昨年の秋、機会を得て、アメリカからヨーロッパに欧米都市の視察の旅に出て、我が国が世界の文明国に伍して、決してひけをとらない立派な国であることを今更のように改めて知る機会を得たのであるが、今日の日本を作りあげることについて、明治からの我が国の教育制度の輝かしい功績をたたえざるを得ない。と同様に、志太郡に始めて中学を誘致した郷土の先人の遺徳を偲び、その恩恵に感謝するとともに、報徳の念にもえ些かでも郷党の為めに努力致したいと存じます。この秋、同期生の有志が静岡に集まって恩師土橋先生、太田先生、尾崎先生をお迎えして歓談の一夜をすごしたのですが、いつに変らない恩師の先生方の御元気な御様子に接し、嬉しく懐しく存じました。

末筆ながら、同期生諸君の御活躍を期待申しながら同窓会役員会のお骨折りによってこの企画がお互いの疎遠をとく一助になれば幸いと存じます。

（第12回　静岡県企画課長）

所感

三橋護夫

「縁は奇なもの」と申しますが人生というものは本当に皮肉にできているものだとつくづく思います。

私など小学生時代には裏のみかん山に登っていささか、ただのみかんを賞味した部類に属するのですが、藤高に入ってからは先生の覚えめでたく（と信じているのですが！）、蓮華寺池一周マラソンのとき、みかんをたった二、三個盗んでさんざんの目にあったクラスメートのことでは先生から「困ったものだ」と半ば相談を受けたりしました。

藤高時代にはほんの少しの期間俳句の同好会に入っていたことはありましたが、いずれ編集の仕事がまわってくるだろうことを恐れて、そっと！やめてしまったことがあります。

それが今では勤務している日本航空の社内報を編集する仕事で四苦八苦しているのです。今日もお世話さまになった加藤春光先生から原稿をとのごていねいなご依頼を受けて、きょう私自身が書いた原稿依頼の手紙のことを思い出しこれはすぐ何か書かないとたちまち因果はめぐって私も編集に参加している社内報の新年号の発行が遅れてしまうかもしれないぞ、オレの場合はメシに関係するからなというわけで喜こんで？筆をとっている次第。

あれやこれや、藤高時代のこと私自身の三十数年の人生をふりかえってみると、要するにできる範囲内で誠実に生きること、なんでもいい一生懸命何かに打ちこむこと、これさえあれば人生も永いうちには何かの味を教えてくれるのではないかと思っています。

とにかく旧制志太中から始まって藤高を卒業するまでの六年間は本当に楽しいものでした。私の青春前期に当るわけですが、あんなにおおらかで私なりに充実した六年間を持てたことを心から感謝せずにはいられません。

（第25回　日本航空K・K）

〃雑感〃

金原仲佳

つい二、三日前の事、何気なしに机の上を見ると、母校サッカー部のインターハイ初優勝の記念特集号として発行された校内新聞が目にとまった。在校中の想い出にふけりながら、此の新聞を読んでいるうちに、ふと何か物足りなさを覚えたのです。

今まで私達は、母校の発展と同窓生等の協同親善にどんな関心をよせ、どのような努力をした事があるだろうか……と。

なるほど、サッカー部の連続二段にわたる全国制覇を知った時は誰もが喜こび「私も藤枝の同窓なんです」等周囲に話され、自分自身も大いに誇りに感じた事もあるでしょう。（私も人に負けない程誇りに思いました）。

然し、もしもこのような私達卒業生を刺激するような場面に出合せなかったとしたらどうでしょうおそらく大きな感激も受けず、ただ自然と母校に足を運ぶ事もなくなるでしょう。六〇〇〇余名を数える立派な母校同窓会組織を有しながら、次第に母校同窓生とは縁遠くなって行くなど、非常に残念な事だと思います。

〃サッカー部のすばらしい伝統におんぶしてきた〃と云っても過言とは思えない現実の藤枝東高校のスクールカラーは、このあたりで六〇〇〇余名の同窓生の結束をもって、今一歩進んだものに育てて行く必要があると思います。これさえ成功すれば、現在、他の同窓会と比較して、あまり活発とは云えない私達の同窓会も少なかず発展して行くのではないかと信じます。

同窓会報の発行される今、私達は今一度青春の日を送った母校を想ってみようではありませんか。

（第35回　日産火災海上K・K）

「高等学校というもの」

千葉三郎

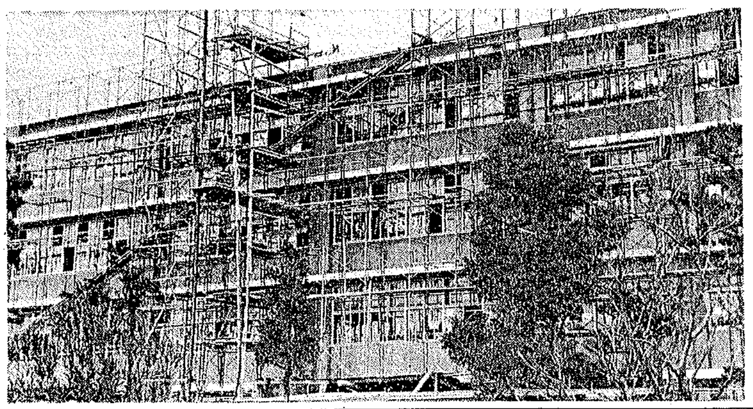
高等学校は義務教育ではなく、個人の自由意志で、選択できる所である、私は、自分の将来のためにと、すばらしい高校生活を夢みて、進学してみた。

中学生の時、東高は一つのあこがれだった。サッカーの強い学校そして何かしら夢のある学校と。入って見ると、土地柄のせいか、温和で、泰平ムードに溢れた学校生徒の中に気力の感じられない学校であった。新しい校舎に、古い木造校舎、部室、武道場、松の木と、目新しい物も多かったけれど期待していた事とは程遠い感じだった、初め頃はいいけど、そのうちに「学問の真の追求は、大学へ行ってからに」「課外活動は、一年の時だけ」友達は、大抵進学の事で頭一杯にさせられ、自分の期待のはかなさに気がついた時には何んて寂しい思いがした事だろう「何だ、高校ってこんな所か」って思った。「何の為に、学問を学ぶのか」それは自分で考える事じゃないんだろうか、しかし、そんな事を考えていたら、みんなはあざ笑っているみたいだ、「馬鹿な奴だ、俺だって一度は考えたさ、そんな事考えてたら、大学受かりゃしない、考える事は大学に入ってからさ」本当にそれでいい？高校生は考える事をする必要はない？卒業する今になっては自分自身いたしかた無いけど、もっと真剣に考えるべきじゃないんだろうか自分の生活している時点で、その場で、その場の事を、自分を真剣に考えないで、大人になって真剣に考えられるだろうか、卒業してからと言うが、高校生活で考えられなかった者が、どうして大学、職場で考えうるか、今以上に、大学や、職場には、個人の時間など存在しないのじゃないのか、自分の周囲に起っている事を考える事が、そんなに馬鹿々々しい事なんだろうかって思っている。

東高は、「秋」「春」が良かった、夕方、下校の途中、瀬戸川の橋から見た夕焼け、素晴らしかったなあ！「自然はこんなに美しいのに、世の中が、学校の中がこんな風に美しかったら」って思った事も何度かあった。

私は、自分の恩師に、教師がすべて、無能だ、なんて思いたくない。たしかに、教師とても、人間である、だから、数多くの問題もあるだろう、あってしかるべきだろうけれども、生徒の前では、教師であってほしい、我々の指導者我々の問題を、速断に、解決する教師であってほしかった。ただの人間であって欲しくなかった。私達には未完成の問題点を内在しているにちがいない、しかし、私達は、次の世代を担う若者だ、若者は世の中を正しくしていく力になる、老いぼれた老人には、次の世代を担う力にはなり得ないだろうだから、正しさ、あいまいのない正しさ、って何か、仲間を信頼、信頼し合うことの、素晴らしさをそれを教える事は大切じゃないのか。学問の表面的、実用だけを教え、その学問の底に流れる、ヒューマニティ、愛情を教えないのでは、進学の指導にだけ重点をおき友情を指導しないのでは。生徒の欠点、不正行為だけを指摘し、それを正しい方向に向けて行くよう教えないのでは、社会は矛盾の方が多く、教師もいそがしいかもしれない、しかし、私達は、そんな事に負けてはいられない。私達が次の世代の担い手である以上、我々は負けてはいられない、負ける事は許されないし、負けないよう頑張る。東高の実在は半永久的であろう、だから、本当の学問を教えてほしい、私は卒業するに当って、自分の後輩が、本当の学問を学べる様望む。それによって、東高は真のすばらしい伝統が作り出されるだろう、その時、私達は、東高の卒業生である事を、東高で学んだ事に、大きな喜びを感じ、本当に素晴らしい事だと思うにちがいない。

（昭和四十年度生徒会長）



写真は　完成近い新校舎